

米国 雇用回復の鈍さを背景にマインドは引き続き低水準 (10年6月消費者マインド)

発表日: 2010年6月29日 (火)

～高い失業率を背景に現状、期待判断がともに低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

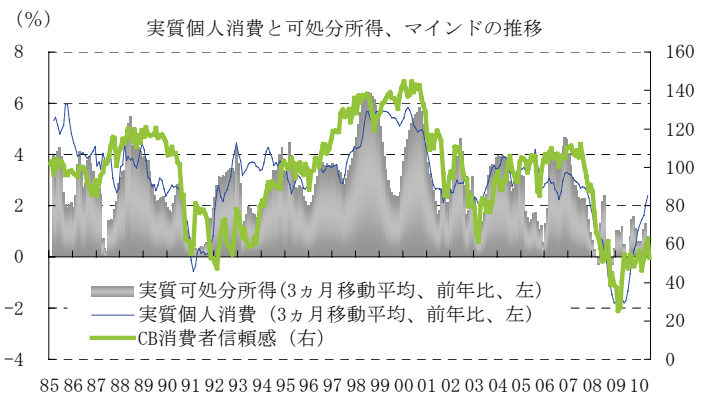
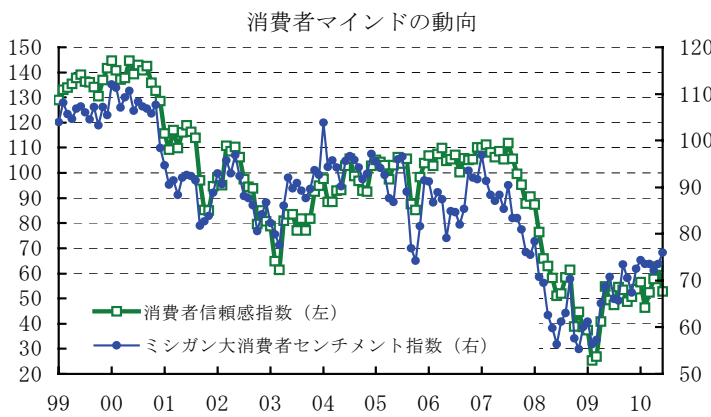
03-5221-5001

6月のCB消費者信頼感指数は52.9と前月比▲9.8ポイント悪化

6月のCB消費者信頼感指数は、52.9 (前月62.7) と前月比9.8ポイント低下し市場予想の62.5を大幅に下回った。足下での雇用の回復ペースの鈍さから景気、雇用の先行きに対する懸念が強まった。一方、6月はミシガン大学消費者センチメント (6月76.0、5月73.6)、ABC消費者信頼感 (6月▲43、5月▲45) などの他のマインド調査は改善しており、6月の個人消費の落ち込みは示されていない。もっとも、全ての消費者マインド調査の水準は、失業率の高止まりなど足下の厳しい雇用情勢を背景に低い水準にとどまっており、個人消費の緩やかな拡大を示唆している。

市場予想を大幅に下回ったCB消費者信頼感指数発表直後の市場の反応をみると、債券市場で10年債利回りは欧州債務問題への懸念の強まりによって同統計公表前から3%を下回っていたため下げ幅は限定的なものとなった。為替市場ではドルが対円で弱含み、対ユーロでは一旦強含んだが下落に転じた。株価指数は下落した。

今後、景気回復が続くものの雇用の回復ペースの鈍さを背景に、現状指数は小幅上昇にとどまろう。一方、期待指数は景気回復持続期待の強まりによって改善するも、既にかなり上昇していることから改善余地は限定的。このため、消費者マインドは上昇するもののそのペースが鈍く、低い水準にとどまると予想され、個人消費は緩やかな拡大になると見込まれる。



(出所) 米商務省、CB

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

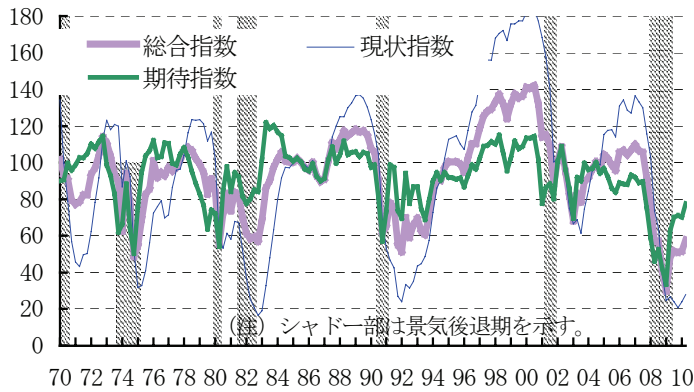
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数		充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
09/11	50.6	70.3	21.2	3.1	49.2	19.7	14.6	4.5	2.1	67.4	66.5	68.8
09/12	53.6	75.9	20.2	3.1	48.1	21.2	11.8	3.9	1.7	72.5	68.9	78.0
10/01	56.5	77.3	25.2	4.4	46.5	20.7	12.7	5.2	2.4	74.4	70.1	81.1
10/02	46.4	62.9	21.7	4.0	47.3	16.1	15.9	5.3	2.7	73.6	68.4	81.8
10/03	52.3	70.4	25.2	4.0	46.3	18.0	13.6	3.9	2.8	73.6	67.9	82.4
10/04	57.7	77.4	28.2	4.7	44.8	19.7	12.4	5.4	2.1	72.2	66.5	81.0
10/05	62.7	84.6	29.8	4.6	43.9	22.8	11.9	6.0	2.1	73.6	68.8	81.0
10/06	52.9	71.2	25.5	4.3	44.8	17.2	14.9	3.7	1.9	76.0	69.8	85.6

(出所) The Conference Board, University of Michigan

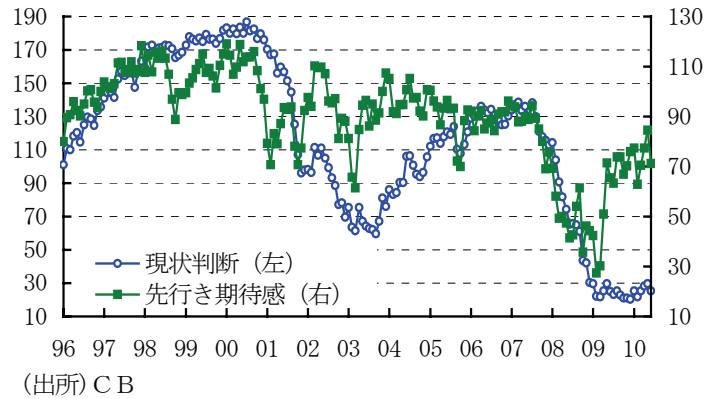
(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

消費者信頼感指数の推移(四半期)



消費者信頼感指数の推移



現状指数が前月比▲4.3p低下、期待指数が同▲13.4p低下

内訳では、現状指数が前月比▲4.3ポイント低下し、期待指数が同▲13.4ポイント低下した。現状指数は、足下の雇用の回復ペースの鈍さが影響した。一方、期待指数は景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まり、雇用の先行きの見方も悲観的に転じたうえ、所得の先行きに対する悲観的な見方が強まったため低下した。

現状判断では「雇用」、「景気」がマイナス幅を拡大

現状指数の構成項目では、「雇用」、「景気」がマイナス幅を拡大し現状指数全体は悪化した。詳細をみると、現在の雇用環境に対する悲観的な見方は強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲40.5と前月の▲39.3からマイナス幅を拡大】。さらに、現在の景気に対する悲観的な見方が強まった【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲34.4と前月の▲29.8からマイナス幅を拡大した】。

現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、大幅なマイナス水準にとどまっていること等から、6月の失業率は9.7%と前月と同水準が予想される。

期待では「景気」がプラス幅を縮小し、「雇用」がマイナスに転じ、「収入」がマイナス幅を拡大

期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を縮小し、「雇用」がマイナスに転じ、「収入」がマイナス幅を拡大したため、期待指数全体は大幅に悪化した。詳細をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+2.3と前月の+10.9からプラス幅を縮小した】。加えて、雇用の先行きに対する見方が悲観的となった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲4.8と前月の+2.4からマイナスに転じた】。先行きの収入については悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲6.6と前月の▲5.0からマイナス幅を拡大】。

インフレ見通しは高止まり

インフレに関する調査では、6月のインフレ見通しが5.2%（前月5.3%）と、高止まりしている。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する楽観的な見方が強まったことから、金利が上昇するとの見方が強く、目先の耐久財、住宅需要を下支えする要因となる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。